

熊本県支部だより

田添 昇

1 熊本県透析施設協議会について

熊本県には日本透析医会熊本県支部というものは存在せず、それに代わり熊本県透析施設協議会という会で活動を行っている。本会は熊本県内の透析施設相互の連絡を密にし、透析医療の充実を図り、透析事業ならびに腎疾患対策事業の円滑なる運営に協力することを目的として1986年に発足した。入会施設は年々増加し、現在は79施設、本県の透析施設は93施設なので、約85%の入会率という事になる。ただ、会員全員が透析医会の会員というわけではない。

日本透析医学会の2011年末の統計調査報告によると、熊本県の透析患者数は6,169名であり、人口100万対比では第2位（以前はずっと1位）だった。ただ、このことを導入患者数が1位や2位であると勘違いされていることも多く、他科の同級生の先生から次のように言われることさえある。「熊本は透析導入が日本一多いから、どがんかせんといかんたい」。私とその都度説明するのは、「人口あたりの透析患者数は確かに日本一多いけど、人口あたりの新規導入数は1位じゃない。人口あたりの人数が多いのは、透析を始めてからも長生きされる方が多いのも関係あるとよ」と。導入後の患者自身の自己管理の良さとか、各透析施設の努力の結果が日本1位あるいは2位の一因であると思う。

本会はこれまでスタッフ教育、定期講演会開催、災害対策などに力をいれるとともに、施設間の顔の見える連携を築こうという目的で夏のビアパーティを行っ

てきた。

スタッフ講習会については、担当理事が毎年変わることもあり、以前は講習の内容や難易度に統一性がなかったが、平成23年より見直しに着手し、基礎的な内容を1日かけて講義する形をとっている。平成25年は約200名の受講者があり、好評のうちに終了した。

また、本会が主体となり、本年より透析患者の重大な合併症である心不全の早期発見、早期治療を目的として熊本大学医学部循環器内科との共同研究を開始している。900例という多くの患者数を目標に行っており、その目標のために多くの施設の協力が得られたのは、普段から顔の見える関係を作り上げることを大きな目的としてきた本会でこそ実施できた臨床研究であろうと思う次第である。

以下の報告については、それぞれの担当理事から報告する。災害対策（下村貴文）、定期講演会（久木山厚子）、ビアパーティ（今藤雅之）である。

2 熊本県透析施設協議会の災害対策活動

平成19年1月の熊本県透析施設協議会総会で災害対策分科会の設置を決定し、同年6月から活動している。

[活動内容]

① 透析施設災害対策名簿を作成（毎年更新 平成25年8月 第6版）

熊本県の94透析施設すべてが登録。

熊本県を7ブロックに分け、正・副ブロック長を選出。

施設の住所、電話番号、FAX 番号に加え、正・副代表のメールアドレスを掲載。

- ② 熊本県透析施設災害対策マニュアルを策定（随時改訂 現在は第4版）
電子媒体で配布し、施設毎に修正できるようにしている。
患者会にも配布。
- ③ 災害対策講演会
毎年8月の末に開催（参加者は200～300人）。
- ④ 日本透析医会の情報伝達訓練に参加
例年、熊本県下の95%以上の施設が参加している。
年ごとに違った災害を想定し、訓練を行っている。
- ⑤ ブロック毎、ないしブロック間の話し合いや訓練を行っている。
- ⑥ 九州の各県との話し合い・情報共有を行っている。

[事例]

平成24年7月12日の九州北部豪雨災害では、阿蘇地区の2施設が被災し透析困難となった。被災を免れた阿蘇地区の他施設および熊本市内の施設の協力、および自衛隊からの給水援助を得て無事乗り切ったが、そのさいに日頃の災害対策が役立った。

3 熊本県透析施設協議会主催の講演会

以前より、年1回、熊本県透析施設協議会主催で医師、看護師、臨床工学技士を対象に講演会を行っている。以前は透析の合併症などについての講演会を行っていたが、これらの事に関しては製薬会社主催の講演会がよく開催されるので、5年くらい前より、本会主催の講演会では透析周辺に関係し、講演を聞きたいが製薬会社が主催しないような演題を選んでいる。

平成21年は、熊本大学大学院医学薬学研究部脳機能病態学分野の池田学教授に「認知症の基礎知識——透析患者における認知症、せん妄を含む」について、平成22年には同教授が以前研究していた「人類学について——チンパンジー、ゴリラと人間の比較」について講演いただいた。

平成23年は熊本県医師会顧問弁護士の成瀬公博先生より「医療訴訟を起こさせないための基礎知識」を

講演していただいた。平成24年は人材育成プロスタッフの友澤信哉先生より「コミュニケーションスキル」について講演いただき、もっとこの事について勉強したいという希望が強く、平成25年は同講師より「コーチングスキル」という講演をしていただいた。平成26年には、札幌北クリニックの大平整爾先生に終末期医療についての講演をお願いしている。

いずれの講演会も勉強になったと評判がよく、毎回約100名位が参加している。

4 ビアパーティー

平成14年に顔の見える病診連携を目指し、ビアパーティーを始めた。熊本県透析施設協議会には現在79施設が入会している。ビアパーティーへの参加者数は当初は67名だったが、平成25年8月8日には39施設、307名になった。歴代会長および理事の尽力により、年々、参加者が増えて、今日の規模に拡大している。協議会からの協賛に加え、会員先生方の援助があり、多くの看護師・臨床工学技士・事務員・医師が集まっている。病診の縦のつながりだけでなく、診診の横のつながりも強くなり、職種に関係なく知り合いになり、まさに顔の見える関係を築き、患者の紹介もスムーズに行えている。

会場が熊本市内のため、天草などの遠方からの参加が困難で、参加者は増加しているが、参加施設数は伸び悩んでいることが今後の課題である。今のところ、熊本市および周辺市町村に限られてはいるが、顔の見える医療にビアパーティーは一定の成果を上げているものと自負している。

